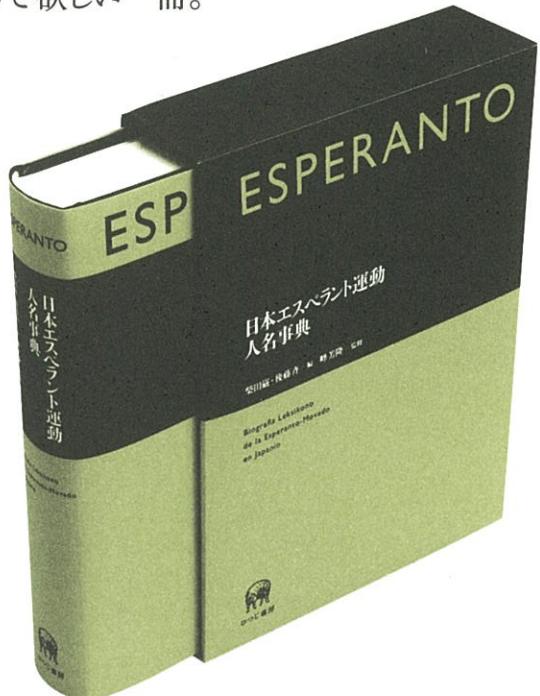


ESPERANTO

国際語エスペラントの125年以上の歴史の中で、それを使い、広めるための運動は日本においても多彩に展開された。加わった人の多くは無名であるが、吉野作造、柳田國男、宮沢賢治、梅棹忠夫などの著名人も含まれる。本書は約2900人の物故者を取り上げ、エスペラント運動の全体像とエスペラントに関連した活動や著作を紹介。歴史的事実としてのエスペラントを記述し、エスペラントの位置づけに新たな視点を提示する。国際交流のなかで言語問題にどう対処してきたか、真の国際化はどうあるべきかを探る模索の記録でもある。巻末には人名索引も掲載、人ととのエスペラントに関連した結びつきを示した。エスペランティストはもちろん、それ以外の人にも読んで欲しい一冊。



日本エスペラント運動人名事典

柴田巖・後藤斉編 峰芳隆監修

定価15,000円+税

ISBN 978-4-89476-664-8 C0521

A5判上製カバー装 函入り 672頁

2013年10月刊行

ご注文書

■ 日本エスペラント運動人名事典

定価15,000円+税 ISBN978-4-89476-664-8

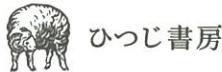
お名前

ご住所

お電話番号

メールアドレス

【書店名】



〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F
toiawase@hituzi.co.jp http://www.hituzi.co.jp/
tel 03-5319-4916 fax 03-5319-4917

○お近くの書店にてお申し込みください
○書店様へ この用紙で店頭用をご注文下さいます場合は、返品条件付き
です。返品の際は海老澤了解を伝票にご明記のうえでお戻し下さい。
【取次】トーハン・日販・大阪屋・太洋社・八木書店・日教販・地方小

日本エスペラント運動 人名事典

柴田巖・後藤斉=編 峰芳隆=監修

Biografia Leksikono
de la Esperanto-Movado
en Japanio

ザメンホフが提唱した国際語、エスペラント。
1984年刊『日本エスペラント運動人名小事典』を
大幅に増補・改訂し、およそ2900人を収録。
初の大型事典によるエスペラント運動の記録。

定価15,000円+税
A5判上製カバー装 函入り 672頁
2013年10月刊行



真のインターナショナル、グローバル化とは何なのか？ エスペラントを学び、広めた人々の足跡。

編者のことば

後藤斎



エスペラント運動は特筆すべき性質を備えた文化運動である。1887年にザメンホフにより特定の民族集団に属さない国際語としてエスペラントが提案されると、早くにそれを使う一定規模の集団—言語共同体—が形成された。それは、自分の母語に加えて、自由意思によりエスペラントを選択して学習して、母語を異なる人との間でのコミュニケーションに使用するという、共通の意思と行動を基礎にして、国や民族の境を越えてゆるやかに結ばれている。

エスペラントは「人工語」として理念の面において語られることが多いが、世界のエスペラント運動家たちは、エスペラントをより効果的なものにするために、数世代にわたって多くの試みを積み重ねてきた。125年以上に及ぶその営みは、エスペラントの言語共同体に特徴的な要素を多く含んでおり、エスペラントの多くに共有されている。これを「文化」と呼ぶことは決して不当でない。

日本に限ってみても、この間にエスペラントを使って行われた活動、エスペラントのために行われた活動、その他エスペラントを契機として行われた活動はきわめて多彩である。それに加わった人々も数多い。そのような歴史的事実としてのエスペラント運動を、人物を単位として記述することが本事典の目的である。

原則として2012年末までの物故者を対象として、氏名、生没年月日、出身地、主な学歴、別名（旧姓・筆名など）、事績（主な経歴とエスペラント活動歴）、著作、参考文献を記載する。対象は狭い意味のエスペラント運動家に限定せず、側面からまた外部から積極的に関係した人をも含むものとする。エスペラント運動に大きな貢献をなした人や他の分野においても特徴的な活動をなした人には、相応の記述量を充てるようにした。

本書では、これまで見過ごされてきた、あるいはほとんど知られていなかつた事実を数多く拾い上げている。例えば、民俗学者・柳田國男はスイスで地域のエスペラント運動に積極的に参加し、帰国後に夕食後の家族団欒としてエスペラント単語を子供に学ばせた。民族学で高名な梅棹忠夫はたびたび国内外のエスペラント行事で講演を行っていたし、日本初の寄付金つき切手が実現したのは、詩人で英文学者の土井晩翠の息子・英一のエスペラントによる文通がきっかけだった。小学校中退の学歴しかないハンセン病患者・黒川眞は短期間でエスペラントを習得し、小説を日本語訳して出版した。

本書を全体として眺めた場合には、日本近現代史の中でのエスペラントの位置づけが見えてくるであろう。エスペラントは大きな役割を果たしたとまで言うことはできないが、様々な分野で多くの役割を果たしたとは言えるのではなかろうか。

後藤斎 | ごとう ひとし [編]

1955年宮城県出身。東北大学大学院文学研究科博士後期課程中退。文学修士。東北大学大学院文学研究科教授。財団法人日本エスペラント学会評議員、理事などを歴任。2006年小坂賞受賞（共同）。

●主な著作

『エスペラント日本語辞典』（共編、日本エスペラント学会、2006）、木村護郎クリストフ・渡辺克義編『媒介言語論を学ぶ人のために』（分担執筆、世界思想社、2009）など。

柴田巖 | しばた いわお [編]

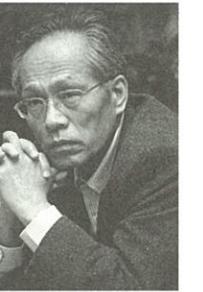
1963年大阪府出身。広島大学大学院社会科学研究科博士後期課程中退。学術修士。千葉工業大学工学部専任講師、助教。2010年没。

●主な著作

『長谷川テル研究—日中戦争・中国における反戦活動の軌跡』（『千葉工業大学研究報告 人文編』35号、1998）、『中垣虎児郎—日中エスペラントの師』（リベーロイ社、2010）など。

佐高信

評論家
週刊金曜日編集委員



世界共通語によって国家の壁を越えようとするエスペラント人脈ということがある。ザメンホフを創始者とするその鉱脈は深く、そして広く、ロマン・ロランから魯迅にまで及ぶ。ユーゴ・スラヴィアの大統領、チトーもその一人だった。日本では大杉栄をはじめ、宮沢賢治、井上ひさし、安部公房などが知られている。「世界のいろいろが一つになるぞよ」と言った大本教の出口王仁三郎も重要なこの一人である。市民の科学者と

して反原発の運動をリードした高木仁三郎や反権力のジャーナリスト、本多勝一もエスペラント人脈につななる。吉永小百合の縁戚の長谷川テルも、もちろん、この事典に取り上げられている。反差別の国際的な連帯をめざすエスペラント運動は世界平和のための貴重な伏流水であり、この人物リストは日本の知的財産として多くの読者に自信を持って薦めたい。

宝井琴桜

講釈師

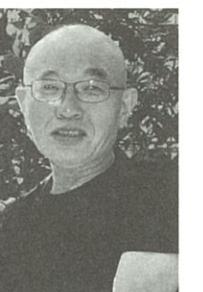


講釈師 見てきたような嘘をつき 私は古典を大事にしつつ創作にも取り組んでいる。「講談・長谷川テル」は嘘ではなく眞実に添った話になっている。山梨県生まれ、奈良女子高等師範学校に入学してエスペラントと出会い、人類が共通の言葉をもてば国や民族の違いをこえて理解することができる、世界の人々が手をつなぐ事ができると日頃は無口なテルが語り出す。そ

してエスペラントを通して中国人留学生と結婚し上海に渡った、日中戦争勃発3ヶ月前の事。戦争下では日本軍兵士に「あなたがたの敵は海に向こうにいるのではない」と反戦放送をし、世界のエスペラント達に平和を呼びかけ日本のかけ橋たらんとしたテル。テルを支えた“エスペラント”。人間の未来にとってももっと大事にすべきものだと思う。

馬場マコト

ノンフィクション作家



ある日突然、本事典の編者後藤教授から、私の父、馬場八十松の項のチェック依頼メールが舞い込んだ。なぜ教授が「無名」のノンフィクション作家と「無名」のエスペラント運動家が親子であると知ったのか不思議だった。私は昨年末上梓したある本のあとがきで、父の名を出し、父と戦争のことをほんの少しだけ書いた。が、エスペラントに触れるることはなかった。私の著書を偶然読んだ後藤教授は、あとがきに父の名

前をみつけ、ふたりが親子であると確信し、問い合わせたのだ。そのことに気づいた時、私は編者の執念に驚愕した。この事典にはエスペラント運動に関わった約2900名のことが記されているという。運動は多くの「無名」の人々によつて支えられてきた。その「無名」の一人ひとりを偏愛し、日本での運動の全貌に初めて追ったのが、本事典だと確信する。

平出隆

詩人
多摩美術大学教授



私はエスペラントに対して、時折り手を伸ばそうとするばかりの者に過ぎない。だが、エスペラントであった祖父の遺品に、いくぶんか、慕わしい神祕の影を感じて育ち、少年時から時間をかけて、そこに強い夢の軸のあることを、ゆっくりと理解してきた。それは、「もうひとつの世界」への夢というべきものである。

後年、祖父の漂泊の跡を辿り、遺された原稿や画稿から、同志との交友ぶりや自然との交信

をわくわくする思いで探査しはじめ、一冊の本にまとめた。その後、『日本エスペラント運動人名事典』の刊行準備のことを知り、いまこうしてみごとな見晴らしの、より大きな探査の成果を手にしている。手にとってページを繰るうちに、おびただしい人々の生涯に、夢の強い軸が霜柱のように立つさまを見る。ここにすでに、「もうひとつの世界」はあらわれている。

米沢富美子

物理学者
慶應義塾大学名誉教授



誰もが学べることを至上の目的に作られたエスペラントの文法体系は簡単だが、語彙はロマン語系統から採用されている。母国語から語彙を類推できない日本人にとって、エスペラント語習得は、英独仏西伊語などと比較して多少荷が軽いとはいえ、容易な仕事ではない。2000近くの基礎語を記憶するのも大事業だ。「希望する人」を意味するエスペラントという言葉も、ロマン語系だし…。しかし、政治や宗教に支配されない

国際語を、という理想は夢だ。言語のちがう諸民族間の相互理解を目的とするエスペラント運動は、さまざまな平和思想と影響を与え合いかがら進められてきた。甘い感傷と一蹴されかねない理想が、か細い脈絡を保ちつつ、時代を超えて生き残ったのは意義高い。21世紀の激動の今こそ、この理想を再び燃やす時ではないか。その時期の本書の出版。最高のタイミングだ。

本文組見本

あ

鮎川常基 | あいがわ つねもと
1902.2.25~1973.9

佐賀/東京工科学校高等科(中退)/九州水力電気に勤務。宮崎支店富高電力所長などを務めて、1957年定年後、朝日生命保険相互会社へ。Eは、31年JOBK(大阪)のラジオ講座で学習後、豊森親・徹兄弟、杉下瓢らが結成した京都(ミヤコ)E会に入会。次いで国際速記に傾倒、さらにローマ字論者に。戦中は行橋E会、JEI福岡支部などで活動。58年11月22日三尾良次郎、三輪竜一らと日向E会を設立し、機関誌『La Spegulo』編集。E関係蔵書は宮崎E会へ。図「たわごと」(EL 1936.10)。図「特集 われらの2600年」(RO 1940.2)、大場格「鮎川常基さんをしのぶ」(LM 1974.1)、大里義澄「Neforgeseblaj vortoj」(RO 1991.7)。図九州電力。

相坂信 | あいさか ただし | 1884頃~1944.12.14

広島/筆名逢坂正、別名火剣/1906年JEA入会(会員番号415)、のちJEIにも参加。10年10月大逆事件の余波で検挙され、12月不敬罪で懲役5年。同年大赦で出獄後、堺利彦の壳文社に参加。東京から大阪へ移り、16年3月12日辻利助、阪上佐兵衛、神崎泉、龍吐源一と大阪E協会を創立し幹事。20年7月福田国太郎、平野長克、森内英太郎と『Verda Utopio』を発刊。雑誌『種蒔く人』[La Semanto](1921創刊)に毎号掲載の「宣言」のE訳者。22年設立直後の大阪労働学校で課外講義Eの講師。24年頃国際連盟協会大阪支部内にE部を設置。24年10月JEI大阪支部創立委員。28年第16回JK(大阪)内で開かれた「記者分科会」の世話人。UEAデレギート(大阪)、SAT会員。妻梅子(旧姓堺屋)は大阪E協会の初期会員。長男をマルテロ(martelo「かなづち」から)、長女をリリーオ(lilio「百合」から)、次男をレオーノ(leono「ライオン」から)と命名。図「Viro kaj virino」('Pioniro' 山中英男, 3, 1928)、「大阪E運動の思い出」(川崎直一)

人物の全体像およびエスペラント活動に関する事績を解説。

1984年に刊行された田中貞美・峰芳隆・宮本正男編『日本エスペラント運動人名事典』(日本エスペラント図書刊行会)を受け継ぎ、収録対象や記述内容を大幅に増補・改訂。生没年月日/出身地/学歴/別名/事績/著作/参考文献等を掲載。

索引

筆記, RO 1930.8)。図「川崎直一「子供の名前をE語で」(RO 1930.8), 法政大学大原社会問題研究所編『大阪労働学校史』(法政大学出版局, 1982), 手塚登士雄「アナキストのE運動 1」(『トスキニア』6, 皓星社, 2007), 『解放のいしづえ(新版)』, 『反体制E運動史』, 『近代日本社会運動史人物大事典』, 『日本アナキズム運動人名事典』。

相沢治雄 | あいざわ はるお
1911.12.3~1988.9.9

北海道/札幌市立商工/1931~39年札幌市電気局, 39~69年定山渓鉄道に勤務し、豊平駅長など。戦後労働組合運動に入り、私鉄総連創立に関与。28年E学習, 31年札幌E会入会。32年第1回北海道E大会に出席、11月北海道E連盟創立に参加。33年11月「赤色分子の入会を拒絶す」と声明し、プロレタリアE派から非難される。34年第3回北海道E大会(小樽)雄弁大会で『Emovado en Hokkaido』を演説。36年第24回JK(札幌)準備委員長。42年1月JEI入会。42年第10回北海道E大会(札幌)の開催に尽力。46年第2次JEA委員。51年第15回北海道E大会(札幌)会長。52年JEI札幌支部設立に際し支部長。第16回(1952)・第18回(1954)北海道E大会(札幌)準備委員長。54年北海道E連盟書記長。星田淳、池本盛雄、児玉広夫、関根憲司、山賀勇らとともに、知里幸恵『Ainaj jukaroj [アイヌ神諭集]』(北海道E連盟, 1979)の共同E訳に参加。北海道E会長、札幌E会顧問なども務め、長年、北海道E運動の発展に貢献。図「De Hakodate al Sapporo」(RO 1936.8), 「事変とE」(『北海タイムス』1938.6.29), 「ジャン有馬の襲撃」札幌で発見』(RO 1981.10), 「月名の由来と暦私案」(RO 1982.1~4), 「北海道E運動裏話」(RO 1982.6), 『改訂版・北海道E運動史』(編著), 図「HEL 1988.9~11, 星田淳「S-ro相沢治雄と北海道E運動」(LM 1988.12), 江口音吉「故・相沢治雄氏の思い出」(HEL 1988.12), 有馬芳治「相沢治雄さまの靈」(HEL 1989.3~4), 切替英雄「故相沢治雄所蔵雑誌目録」(同)。

1

[原寸]

年表組見本

| 国際E運動 | ●日本E大会 | 普及・イベントなど | 刊行物 | 実用・交流など | 社会 |
|--|---|---|---|---------|----|
| 明治 1906 第2回UKスイス、ジエネーブ ザメンホフ、人類主義(ホマニスモ)を明てる ●第1回 東京(9月) | ○組織的活動の始まり ○加藤嘉、横須賀に日本E協会を設立(5月)し、のち黒板勝美、安達子直治ら、日本E協会(JEA) 創立(6月) ○国民美学会でガントレット指導のE講習会(7~8月) ○大正学、E字典を聞く(9月) ○東京、横浜、京都などにJEA支部 | ○村本達三、E書 "A short vocabulary Eng. Isla-E and E-English" を刊行(3月) ○黒板勝美の講話が『読売新聞』に掲載され、注目 を引く(5月) ○二葉亭四迷、『世界E』(7月)、『世界語読本』(9月) ○丸山善太郎、ガントレット『世界語E』(7月) ○日本人 "Japan Expression" 誌(1月)創刊(8月) ○日本E研究会編『世界語強制』(9月)、『世界語辞典』(10月) ○加藤嘉「全世界通用語E強制」(9月) ○黒板勝美 "E-Japana vortato" ○六ヶ傳益治、『中央公論』などにE開進記事 | ○浅田栄次、東京外語学校の卒業式でEの挨拶(4月) ○第1回JKで浅田栄次、千布利雄がEで演説。大杉栄・桃太郎、E書を朗読。 | | |
| 1907 第4回UK 英国、ケンブリッジ Eの改良案としてイギリスが提案される ●第2回 東京(11月) | ○佐々城佑、アメリカでE学習 | ○有楽山からザメンホフ "Elzercero de la lingvo E" 刊行 ○原田勇美『日華世界語教科書』、『教育自在E講義』 | ○原田勇美、"Simbolano Climonata" 誌(=1910) ○大杉栄、"Internacional Socia Revuo" に寄稿 | 伊藤博文暗殺 | |
| 1908 第4回UK イタリア、ドレサン (黒板勝美、新村出雲 加) 世界E協会 (UEA) 創設(=現在) | ○大村寅、中国人留学生にEを教授 ○黒板勝美、洋行(~10月)、以後しばらくE運動の沈没 | ○原田勇美、"Oriente Asia" 誌(=1916) ○大石和二郎、ドイツ留学中にボツコー | ○エレデル来日(初の外因から)E-ito ○E会に参加 | 辛亥革命 | |
| 1909 第5回UK スペイン、バルセロナ | ○JEAを外因向けに転換を図るが不調、体刊がみに ○中村寅、物理学校でE講習会 ○阿閉源三、浅井薫ら金沢のHokuriku Exchange ClubでE採用 | ○JEを外因向けに転換を図るが不調、体刊がみに ○中村寅、物理学校でE講習会 ○阿閉源三、浅井薫ら金沢のHokuriku Exchange ClubでE採用 | ○原田勇美、"Oriente Asia" 誌(=1916) ○大石和二郎、ドイツ留学中にボツコー | 大正改元 | |
| 1910 第6回UK 米国、ワシントンDC オランダユゴヴァ若、ザメンホフE書 "Marta" | ○原田勇美、世界語書院を設立し、E書輸入など | ○原田勇美、"Verkaro de D-ro L.L. Zamenhof" 記述名義 ○大坂博之、"Eugenio Zamenhof" 記述名義 ○中村寅、黒板勝美・千布利雄編『大成E和訳辞典』(4月) ○田代参也、これ以降たびたび中国に ○アラキサンドラー、初めて来日 | ○エロシエンコ、中村精男を招って来日 第一次世界大戦(=1917) | | |
| 1911 第7回UK ベルギー、アントワープ | ○原田勇美、世界語書院を設立し、E書輸入など | ○原田勇美、"Verkaro de D-ro L.L. Zamenhof" 記述名義 ○大坂博之、"Eugenio Zamenhof" 記述名義 ○中村寅、黒板勝美・千布利雄編『大成E和訳辞典』(4月) ○田代参也、これ以降たびたび中国に ○アラキサンドラー、初めて来日 | ○エロシエンコ、中村精男を招って来日 第一次世界大戦(=1917) | | |
| 1912 第8回UK ボーランド、クラクフ(收蔵五一郎参加) ザメンホフ公的な地位から退出 | ○中村寅、物理学校でE講習会 ○阿閉源三、浅井薫ら金沢のHokuriku Exchange ClubでE採用 | ○原田勇美、"Oriente Asia" 誌(=1916) ○大石和二郎、ドイツ留学中にボツコー | ○大石和二郎、ドイツ留学中にボツコー | 辛亥革命 | |
| 1913 第9回UK スイス、ベルン | ○JEA台湾支部設立(12月) | ○原田勇美、"Verkaro de D-ro L.L. Zamenhof" 記述名義 ○大坂博之、"Eugenio Zamenhof" 記述名義 ○中村寅、黒板勝美・千布利雄編『大成E和訳辞典』(4月) ○田代参也、これ以降たびたび中国に ○アラキサンドラー、初めて来日 | ○原田勇美、"Verkaro de D-ro L.L. Zamenhof" 記述名義 ○大坂博之、"Eugenio Zamenhof" 記述名義 ○中村寅、黒板勝美・千布利雄編『大成E和訳辞典』(4月) ○田代参也、これ以降たびたび中国に ○アラキサンドラー、初めて来日 | 大正改元 | |
| 1914 第10回UK フランス、パリ(予定、第一次世界大戦のため中止) | ○JE復興 ○中村寅、黒板勝美・千布利雄編『大成E和訳辞典』(4月) ○田代参也、これ以降たびたび中国に ○アラキサンドラー、初めて来日 | ○原田勇美、"Verkaro de D-ro L.L. Zamenhof" 記述名義 ○大坂博之、"Eugenio Zamenhof" 記述名義 ○中村寅、黒板勝美・千布利雄編『大成E和訳辞典』(4月) ○田代参也、これ以降たびたび中国に ○アラキサンドラー、初めて来日 | ○エロシエンコ、中村精男を招って来日 第一次世界大戦(=1917) | | |
| 1915 第11回UK 米国、サンフランシスコ | ○東京帝大E会設立(11月) | ○原田勇美、"Verkaro de D-ro L.L. Zamenhof" 記述名義 ○大坂博之、"Eugenio Zamenhof" 記述名義 ○中村寅、エロシエンコと出会う ○スマルク、米日 ○高橋太郎と中日対観、ラジオストラーハビビアン、北京などへE旅行(初のE海外旅行) | ○原田勇美、"Verkaro de D-ro L.L. Zamenhof" 記述名義 ○大坂博之、"Eugenio Zamenhof" 記述名義 ○中村寅、エロシエンコと出会う ○スマルク、米日 ○高橋太郎と中日対観、ラジオストラーハビビアン、北京などへE旅行(初のE海外旅行) | | |
| 1916 ●第3回 東京(4月) | ○E運動の再生へ ○大坂E協会設立 ○エロシエンコ、東京首学校で講習を指導し、鳥居萬三郎を育成 | ○原田勇美、"Verkaro de D-ro L.L. Zamenhof" 記述名義 ○大坂博之、"Eugenio Zamenhof" 記述名義 ○中村寅、黒板勝美・千布利雄編『大成E和訳辞典』(4月) ○田代参也、これ以降たびたび中国に ○アラキサンドラー、初めて来日 | ○原田勇美、"Verkaro de D-ro L.L. Zamenhof" 記述名義 ○大坂博之、"Eugenio Zamenhof" 記述名義 ○中村寅、黒板勝美・千布利雄編『大成E和訳辞典』(4月) ○田代参也、これ以降たびたび中国に ○アラキサンドラー、初めて来日 | | |
| 1917 ザメンホフ(4.14) | ●第4回 東京(5月) | ○比嘉春潮、伊波普猷らJEA沖縄支部(10月) | ○原田勇美、"Verkaro de D-ro L.L. Zamenhof" 記述名義 ○大坂博之、"Eugenio Zamenhof" 記述名義 ○中村寅、黒板勝美・千布利雄編『大成E和訳辞典』(4月) ○田代参也、これ以降たびたび中国に ○アラキサンドラー、初めて来日 | ロシア革命 | |

日本エスペラント大会開催情報

世界におけるエスペラント運動の時流と日本での活動を並べて一覧する。

収録人物中の著名人

秋田雨雀、安部公房、井上ひさし、伊波普猷、梅棹忠夫、大杉栄、丘浅次郎、黒板勝美、瑛九、江上不二夫、エロシエンコ、大石和三郎、尾崎行雄、小田切秀雄、川喜田二郎、北一輝、久保貞次郎、栗栖継、小林司、小林英夫、堺利彦、佐々木喜善、佐々木孝丸、ザメンホフ、柴山全慶、周作人、新村出、関口存男、高木仁三郎、高杉一郎、高見順、出口王仁三郎、土井晩翠、土岐善麿、徳富蘆花、中村精男、西成甫、新渡戸稟造、巴金、長谷川テル、比嘉春潮、二葉亭四迷、宮城音弥、宮沢賢治、八木日出雄、柳田國男、吉野作造、ラムステット、魯迅……

こんな人も登場

芥川龍之介、曉鳥敏、東龍太郎、内村鑑三、梶山季之、神近市子、木下順二、黒岩涙香、小松左京、西光万吉、佐藤春夫、更科源藏、沢柳政太郎、島木健作、下中弥三郎、杉谷文之、芹沢光治良、相馬黒光、高橋和巳、高見順、高村光太郎、田中館愛橋、都留重人、鶴見祐輔、手塚治虫、徳川家達、中野重治、野上弥生子、野間宏、長谷川如是閑、羽仁五郎、福田赳夫、星新一、穂積陳重、正木ひろし、宮沢俊義、宮本百合子、武者小路実篤、矢内原忠雄、山川菊栄、山川均、山耕翁、湯川秀樹……

社会の流れを並列して提示

図書二十一角要求

568 569